

作物名	ピーマン・ししとう・なんばん	
病虫害生理障害名	ワタアブラムシ	
アブラムシ類	モモアカアブラムシ	
発生状況	中発生	
発生時期	6月上旬～	
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ワタアブラムシとモモアカアブラムシの発生が見られている。 モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。 ワタアブラムシの体色は黒、緑、黄で、下葉の葉裏に多く見られる。 ジャガイモヒゲナガアブラムシが発生する場合もあり、葉の変形や黄化が見られる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 多発すると防除が困難になるので、マルチに落ちた白いゴミのような抜け殻や甘露（べとべとした排泄物）を手がかりに初発を見逃さないよう努める。 発生初期は一部の株に寄生が集中するので、発生量の少ないうちは寄生された葉を取り除き広がるのを防ぐ。 下葉の裏側や、重なり合った葉、生長点付近の未展開の葉等に寄生している場合が多く、薬剤がかかりづらいので、丁寧に行う。 		
<防除の一例> ピーマン ●ウララDF 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内 ピーマン・ししとう・なんばん ●チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内		

作物名	ピーマン、ししとう、なんばん																									
病虫害生理障害名	ヨトウガ・オオタバコガ																									
発生状況	発生に注意																									
発生時期	ヨトウガの食害 卵塊で産卵 葉や果実表面を食害	オオタバコガ 卵はばらばらに産卵 果実に食入して食害																								
6月下旬～																										
発生時の状況・要因																										
<ul style="list-style-type: none"> いずれも食害はまだ見られていないが6月下旬以降の発生に注意が必要である。 ヨトウガは6月下旬から1期目成虫の発生が見られる。初め幼虫が集団で葉を食害し、成長に伴い分散し、食害量も増加する。 オオタバコガは飛来性害虫で、既に飛来が確認されている。幼虫は一頭ずつ分散し、果実へ食入する性質が強い。 																										
対策																										
<ul style="list-style-type: none"> 成長した幼虫には薬剤が効きづらくなるので、発生初期に登録のある薬剤で防除を行う。 																										
<防除の一例> <table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>対象害虫</th> <th>ピーマン</th> <th>ししとう</th> <th>なんばん</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フェニックスジェット</td> <td>オオタバコガ</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>プレオフロアブル</td> <td>タバコガ類</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ゼンターリ顆粒水和剤</td> <td>ヨトウムシ</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>オオタバコガ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			薬剤名	対象害虫	ピーマン	ししとう	なんばん	フェニックスジェット	オオタバコガ	○			プレオフロアブル	タバコガ類	○	○	○	ゼンターリ顆粒水和剤	ヨトウムシ	○	○	○	オオタバコガ			
薬剤名	対象害虫	ピーマン	ししとう	なんばん																						
フェニックスジェット	オオタバコガ	○																								
プレオフロアブル	タバコガ類	○	○	○																						
ゼンターリ顆粒水和剤	ヨトウムシ	○	○	○																						
	オオタバコガ																									
<ul style="list-style-type: none"> ●フェニックスジェット 50g/400㎡ (床面積200㎡×2m) 収穫前日まで 2回以内 ●プレオフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内 ●ゼンターリ顆粒水和剤 ヨトウムシ1,000～2,000倍 オオタバコガ1,000倍 発生初期但し、収穫前日まで 回数制限なし 																										

作物名	ピーマン	
病虫害生理障害名	菌核病	
発生状況	少発生	
発生時期	6月上旬～	
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 発生ほ場は限定的であるが、茎葉及び果実での発生が確認された。 前年に形成された菌核が土壌中で越冬し、翌年子のう盤を形成して発生源となる。 20℃以下の多湿条件で発生しやすい。 茎に発生した場合は、発生部位から上の茎葉が萎凋枯死する。 果実では褐変腐敗し、幼果では腐敗落果する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 多湿が多発の原因となるので、ハウス内の換気に努め、茎葉が繁茂している場合は下葉を除去するなどして通気性を確保する。 芽かきや摘葉は晴天時の午前中に終わらせ、傷口を十分に乾かす。 		
<防除の一例> ●ロブラール水和剤 1,000倍 収穫前日まで ※ ●ロブラールくん煙剤 100g/300～400㎡ (床150～200㎡×高さ2m) 収穫前日まで ※使用回数は水和剤とくん煙剤と合わせて4回以内		

作物名	さやいんげん・さやえんどう	
病虫害生理障害名	アザミウマ類	
発生状況	発生に注意	
発生時期	6月中旬～	
発生時の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 莢に産卵すると火膨れ症状となり商品性が失われる。 高温乾燥条件で発生が多くなり、周辺雑草（特に黄色や白の花が咲くもの）が多いと被害は大きい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ほ場周辺の除草に努める。 アザミウマ類は花の中にいるので、花の中をよく観察し、発生が多くなってきたら、薬剤による防除を行う。 使用できる農薬は両作物で異なるので、登録内容を良く確認して使用する。 		

作物名	たまねぎ	
病虫害生理障害名		写真左 6月11日発生状況 縦並びの白色小斑点
ネギハモグリバエ		写真下 倒伏期の多発状況
発生状況		
少発生		
発生時期		
5月下旬～		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 5月下旬から第1回目発生が見られた。 発生初期は葉身部に縦並びの白色小斑点（写真左）を生じる。（成虫の食痕・産卵痕など）。 幼虫がふ化し、白色すじ状の食害が拡大する（写真下）。 葉数の少ない株では著しい生育不良や枯死株が発生する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 今後多発が予想されるので、成虫の食痕を観察し、確認したら速やかに薬剤防除を行う。 葉身部全体に薬液が付着するよう、展着剤を加用する。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●リーフガード顆粒水和剤 1,500倍 収穫3日前まで 3回以内 ●ディアナSC 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内 <p>※ ネギアザミウマの発生が見られたら、ディアナSCを選択する。</p> <p>※ いずれの薬剤も展着剤を加用する（まくびか等）。</p>		

作物名	たまねぎ	
病虫害生理障害名		写真左 発生ほ場の様子
小菌核病		
発生状況		
発生に注意		
発生時期		
6月下旬～		写真右 黒色菌核
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 下位葉から発病することが多く、葉身に小豆形の白色の病斑が形成され、しだいに拡大し周辺部の不明瞭な縦長の病斑となる。 病斑内側には白色綿毛状の菌糸が認められ、のちに病斑組織には黒色、1～7mmの薄片状の菌核が発生する。 近年発生が多く見られ、5月下旬から6月上旬以降に曇りや雨の日が続くと多発しやすいので注意が必要。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 初発時期になる6月中旬から、予防的に茎葉散布を行う。白斑葉枯病と小菌核病の両方に登録のある薬剤を使用し、2回程度防除すると効果的。 <p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 5回以内 ●カンタスドライフロアブル 1,500倍 収穫前日まで 3回以内 		

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和元年6月28日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用【農薬編】□■□■□■□

ー農作業事故の防止は日頃の安全確認からー

- ・作物の管理だけでなく、作業者の体調管理にも気を配りましょう。
- ・作業時は定期的な休憩と水分補給を忘れずに行いましょう。
- ・作業はできるだけ2人以上で行うか、定期的に声かけや異常がないかを確認しあいましょう。
- ・事故を防ぐため、作業機械の点検・整備を励行しましょう。
- ・高所作業時には脚立のぐらつきや足場の安定性に留意しましょう。

